

山梨県森林総合研究所 令和8年度実施 試験研究課題の概要

予 算 分 区	部門	No.	試験研究課題	新 継	開始 年度	終了 年度	担当者	概 要	要望・提案 機関	
一般枠	生産科	1	希少植物等の生息域外保全研究	継	R1	R8	西川浩己 林 耕太	レッドデータブックに記載されている本県に固有な希少植物の多数の種で、絶滅の危険性が高まっている。そこで個体数が著しく少ない種での増殖方法の検討や将来的な絶滅防止のための技術開発を検討する必要があるため、バイオテク等により、希少植物種の保護・増殖および現地適応のための技術の開発を行う。	みどり自然課ほか	
		2	広葉樹直挿しによる低コスト更新技術の開発	継	R6	R10	長谷川高平 長池卓男	広葉樹の直挿し(林地へ直接挿し木)による更新可能性を調査し、当該手法による低コストな広葉樹の更新技術の開発を目指す。	峡南林務	
		3	低密度植栽における植栽木の初期成長および生存の調査	継	R7	R11	長谷川高平 長池卓男	植栽本数の違いによる初期成長及び活着・生存への影響を明らかにし、低密度植栽の導入へ向けたデータの収集を行う。	峡南林務	
		4	ナラ枯れ被害林の生態系管理に向けた被害実態調査	継	R7	R9	高柳達志 長谷川高平	ナラ枯れ被害林の生態系管理に向け、ナラ枯れが本県の森林管理に及ぼす影響を、被害実態調査から明らかにする。	峡南林務	
		5	高標高針葉樹林における樹皮下キクイムシによる森林被害発生機序の解明	新	R8	R12	高柳達志 長谷川高平	高標高針葉樹林の環境変化に起因する大規模な被害に備えるため、病害虫群集の形成要因及び生理生態の調査を通じて、病害虫の発生機序を明らかにする。	森林総合研究所	
	環境科	6	獣害防護柵の有効な運用方法の確立に向けた研究	継	R7	R9	林 耕太 大地純平	山梨県内に特化したニホンジカによる被害予測モデルを構築し、それに基づく効果的な獣害防護柵の設置・運用方法を明らかにする。	県有林課	
		7	スズタケの資源量回復と土壌保全機能に関する研究	新	R8	R10	長池卓男 林 耕太	スズタケの回復を目指すために、その回復速度やパターン等を明らかにし、その回復が土壌保全機能等をどの程度高めるかを検討する。	富士・東部林務	
	資源科	8	森林活用促進に向けたヤマビル駆除および再侵入防止手法の開発	継	R7	R9	大地純平 高柳達志	ヤマビルの個体数削減を目的とした「誘引捕殺による個体数削減手法」、「ヤマビル再定着防止対策」について検討し、環境配慮型の低コストヤマビル対策技術を開発する。	森林環境政策課	
成長戦略課題	生産科	9	カラマツ種子の安定生産に向けた研究	継	R7	R9	林 耕太 西川浩己 長谷川高平	カラマツ種苗の安定生産に向けて、種子の豊凶に影響する環境要因と、植物ホルモンのアブシジン酸が着花結実に与える影響を明らかにする。	森林環境政策課	
		10	トリュフの人工栽培に向けた菌定着苗作成技術の高度化	新	R8	R10	林 耕太 一瀬優輝	苗木へのトリュフ菌定着要因を明らかにし、定着成功率が高い菌定着苗木の安定した作成技術確立することで、将来的な本県のトリュフ産地化に向けた課題解決を図る。	森林環境政策課 森林総合研究所	
	資源利用科	11	急傾斜地等での軽運搬を目的とした電動架線システムの開発	継	R6	R8	大地純平 小澤雅之	急傾斜地での軽運搬(10~20kg程度の作業資材等運搬)の効率化と作業労力の削減を目的とした、遠隔操作式電動マイクロ搬器および電動架線システム」の開発および実用化を目指す。	森林政策課	
		12	林業におけるUGV(無人地上車両)導入に関する研究	新	R8	R10	大地純平 小澤雅之 保坂響ほか	林業における生産性や安全性の向上を目的として、UGVの有効活用と現場導入に向けた技術的課題解決を目指す。	森林環境政策課 森林総合研究所	
事業・調査	森林整備課	生産科	13	ナラ枯れ被害木の枝落ち、倒木状況調査	継	R7	高柳達志	ナラ枯れ枯死木の劣化過程を把握し、防除手法決定の資料とする。	森林整備課	
			14	カシノナガキクイムシ発生予察	継	R3	高柳達志	県内におけるカシノナガキクイムシの発生時期を調査し、温度との関係を明らかにする。	森林整備課	
	環境科	県有林課	15	県有林モニタリング事業	継	H19	R8	長池卓男 長谷川高平 高柳達志	県下に調査地4地点を設け、昆虫多様性、菌類多様性、植物多様性、水文・水質状況、炭素固定量の可能な項目について、伐採が周辺林分に及ぼす影響を中心にモニタリングする。	県有林課
		森林政策課	16	森林環境税モニタリング調査	継	H25	長池卓男	山梨県では、平成24年4月から「森林環境税」を導入し、公益的機能が発揮される森づくりを進めている。森林環境税により実施される事業の中で、荒廃した民有林の間伐を進め、針葉樹と広葉樹の混じり合った森林に再生する荒廃森林再生事業が実施された箇所について、その効果を検証することを目的に調査を行う。	森林環境総務課	
		山梨県道路公社	17	富士スバルライン沿線緑化試験	継	S43	長池卓男	富士山という特別な地域の中を通る道路である富士スバルラインの沿線の植生の遷移、修景緑化の方法、更新の状況等を調査する。	山梨県道路公社	
		自然共生推進課	18	山地流域でのニホンジカの捕獲技術の確立と森林下層植生への影響に関する研究	継	R6	R10	長池卓男 大地純平 林 耕太	森林の水土保持機能を発揮させるために、山地流域でのシカの捕獲技術を確立させ、森林下層植生への影響を長期的、広域的に観測することを目的に、①シカ捕獲実証試験と捕獲効果の検証、②シカ個体数調査、③植生・土壌調査、④流域の森林、土砂流出調査を行う。	自然共生推進課
林業振興課	19	広葉樹の新たな活用や管理手法の開発	継	R7	R8	長池卓男	広葉樹ニーズの拡大に応え、広葉樹の持続的な資源管理や活用を目指すため、①在来早生広葉樹(オニグルミ)の成長と下層植生抑制効果、②針広混交林化のための植栽広葉樹管理手法を明らかにする。	森林総合研究所		
外部資金	科研費	環境科	20	ニホンジカの密度はタイムラプス撮影と機械学習で低コストかつ高精度で推定できる	継	R6	R8	林 耕太 長池卓男 飯島勇人(森林総研)	タイムラプス撮影による画像に機械学習による判別技術を組み合わせた簡便かつ正確性の高い局所的なニホンジカ生息密度の推定手法、さらにタイムラプスによる局所密度と他の密度指標を組み合わせた統合個体群モデルによる精度の高い広域の個体数推定手法を開発する。	森林総合研究所
外部資金	林花入粉の対策事業	生産科	21	ヒノキの雄花着花特性調査の短期間化	継	R7	R11	西川浩己	異なった環境において、少花粉品種等の複数の系統に対してジベレリン処理を行い、短期間で雄花着花特性を明らかにするための手法を開発する	(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所 林木育種センター